

# オリンピック・パラリンピック推進対策特別委員会 速記録第十七号

2015年5月27日

## 出席議員 十八名

委員長	高島なおき君	小林 健二君	林田 武君
副委員長	畔上三和子君	石川 良一君	川井しげお君
副委員長	小磯 善彦君	山内れい子君	立石 晴康君
副委員長	吉原 修君	小山くにひこ君	酒井 大史君
理事	橘 正剛君	徳留 道信君	
理事	秋田 一郎君	山崎 一輝君	
理事	吉田 信夫君	鈴木 隆道君	

## 出席説明員

オリンピック・パラリンピック準備局 局長	中嶋 正宏君	大会準備部長	延與 桂君
次長理事兼務	岡崎 義隆君	連絡調整担当部長	浦崎 秀行君
技監	佐野 克彦君	運営担当部長	児玉英一郎君
技監	邊見 隆士君	競技担当部長	根本 浩志君
技監	石山 明久君	パラリンピック担当部長障害者スポーツ担当部長兼務	萱場 明子君
理事	小山 哲司君	施設輸送担当部長	花井 徹夫君
総務部長	鈴木 勝君	施設輸送担当部長	荒井 俊之君
調整担当部長	雲田 孝司君	施設調整担当部長	小室 明子君
総合調整部長	加藤 英典君	施設整備担当部長	小野寺弘樹君
準備会議担当部長	矢部 信栄君	選手村担当部長	安部 文洋君
自治体調整担当部長	井上 卓君	スポーツ推進部長	早崎 道晴君
事業推進担当部長	福崎 宏志君	国際大会準備担当部長	土屋 太郎君
計画調整担当部長	鈴木 一幸君	スポーツ施設担当部長	三浦 隆君

## 本日の会議に付した事件

二〇二〇年に開催される第三十二回オリンピック競技大会及び第十六回パラリンピック競技大会の開催に向けた調査・検討及び必要な活動を行う。

## 報告事項(質疑)

- ・平成二十七年度における競技会場等整備の予定について
- ・二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピック競技大会実施段階環境影響評価書案について

## 石川委員

二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピックの開会式、閉会式を初めとして、メインの会場となる新国立競技場の開閉式の屋根が二〇二〇年の大会に間に合わないという報道が先日舞い込んできたところであります。都のオリンピック・パラリンピック準備局などを通じての発表ではなく、下村文部科学大臣と舛添知事との会談の中で明らかにされたところであります。

リオデジャネイロ・オリンピックの会場の建設がおくれている等の報道に接しましても、これはあくまでも他国のことで、高い技術水準と緻密な計画を遵守する我が国の国民性からして、そのようなことがあるとは想像していなかったところであります。国民も都民も大きなショックに見舞われたというふうにいっても過言ではないのではないかと考えております。

そこで伺います。

前回の当委員会に、二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピック競技大会実施段階環境影響評価書案が示されたところであります。しかし今回、開閉式屋根が二〇二〇年に建設が間に合わないことが明らかになりました。こうした変更は、オリンピックスタジアムにかかわる環境影響評価書案の内容に何か変更や影響を与えるものであるのかどうかお伺いいたします。

**花井オリンピック・パラリンピック準備局施設輸送担当部長** オリンピック・パラリンピック環境アセスメント指針には、環境影響評価開始後の会場等の変更についての手続が定められております。それによりますと、会場等の変更による実施段階アセス図書のやり直しは行わず、次の実施段階アセス図書またはフォローアップ図書への反映をもって変更することができるとされております。

新国立競技場の環境影響評価につきましては、今後、変更があった場合には、その内容等を見きわめながら、指針を踏まえて適切に進めてまいります。

## 石川委員

今回の工事がおくれることに対する変更内容の詳細は、これから東京都に示されると文部科学大臣から発言がありましたが、八万人の席が一万五千人分は仮設で整備することや、総工費も千六百二十五億円がさらに膨らむことや、工期がどのように変更になるのか等も、わからないことがたくさん出ているわけであります。

新国立競技場については、この段階での突然の見直しにより、開閉式屋根がないなど、当初の予定と異なる状況で大会を迎えることになるわけでありますけれども、都が整備する新施設ではこのようなことがあってはならないというふうに思っているわけであります。

前回の本委員会では、平成二十七年度における競技会場等整備の予定についての報告があったわけでありますが、改めて確認させていただきたいと思えます。

都が行う施設整備においては、こうしたおくれや変更が生じないか、また、確実に二〇二〇年大会及び二〇一九年テストイベントに間に合うのかどうかお伺いいたします。

**花井オリンピック・パラリンピック準備局施設輸送担当部長** これまで、都が整備する新規恒久施設につきましては、会場計画の再検討の中で、大会開催に支障を来さぬよう、整備規模、工法の工夫を含めた検討を行ってまいりました。

さらに、前回の当委員会でご報告いたしましたとおり、オリンピックアクアティクスセンター、海の森水上競技場及び有明アリーナにつきましては、実施設計と工事を一括して発注する設計施工一括発注方式により今年度実施設計に着手するなど、二〇二〇年大会に間に合うよう、設計及び施工の合理化、効率化を図っております。

テストイベントを含め、確実に大会が開催できるよう、引き続き各施設の着実な整備に万全を期してまいります。

## 石川委員

ぜひ万全を期していただきたいと思えます。

我が国は、人口の高齢化、労働人口の減少、少子化、地球環境問題への対応など多くの課題を抱えております。また、二〇一一年の東日本大震災は、我が国が厳しい自然条件の中に成り立っていることを改めて示し、災害に強い国土と社会を形成し、一日も早い復興を果たしていくことが喫緊の課題となっているわけであります。

こうした中、二〇二〇年東京大会の開催決定は、各方面に多くの期待と夢をもたらすことができたといえるでしょう。オリンピック・パラリンピックを契機に社会がよくなることへの国民の期待は高く、スポーツ、英会話、ボランティアなど具体的な意識や行動の変化も見られつつあります。元気に二〇二〇年東京大会を迎えるという目標ができた高齢者も多いといわれております。

政府も、二〇二〇年、さらにはその先を見据えた政策立案に動き始めており、民間企業も、数年前まではリーマンショックや東日本大震災対応など守りの姿勢が強かったわけでありますけれども、二〇一三年に入り、海外展開、MアンドA、事業再編、新事業など攻めの展開が随所に見えつつあります。

政府成長戦略とオリンピック・パラリンピックに合わせ、二〇二〇年をターゲットにした計画を策定する動きも見られております。

また、二〇二〇年のオリンピックを一過性のものではなく、レガシーとして各分野で継承していくための議論や計画化も進行しております。

国民の期待が大きい二〇二〇年オリンピック・パラリンピックの新国立競技場も、私どもも、いわば二〇二〇年オリンピックの象徴として建設していくことに賛同し、推進していくべきと考えてきたところであります。しかし、突如、計画の一部とはいえ、実は建設が間に合わないということは大変残念なわけであります。しかも、二〇二〇年に間に合わせる手だてさえ、既に全くないというような今までの報道でございます。まず、この不手際に対して、国民や都民に対して陳謝するということから始まるのが常識というものではないかというふうに思います。そういう意味では、舛添知事の責任者は誰なのかという発言は当然のことであり、まずその責任が問われるべきものと思っております。

しかも、発表の期日が国立競技場の取り壊しが終わった時点ということも、作弄的なものを感じてしまうのも当然であるというふうにいえるでしょう。

あわせて、国が五百億円、いや、それ以上ともいわれる負担を東京都に求めることについては、都民にしっかりと説明責任が果たせるものでなければならぬと断言しておきたいと思えます。このことについても、今後、本委員会でしっかりと説明を求めてまいりたいと思えます。

以上でございます。